

# 中期標準化戦略(平成30年度重点的取組)

<p>専門委員会名</p>	<p><b>oneM2M専門委員会</b></p>	<p>企画戦略委員</p>	<p>中野 裕介(KDDI)</p>
		<p>正副委員長</p>	<p>委員長:山崎 徳和(KDDI)、副委員長:山崎 育生(NTT)</p>
<p>oneM2MはTTCを含む世界の主要な8標準化団体が合意した共同プロジェクトであり、M2M(Machine to Machine)/IoTのサービスレイヤ標準化を行います。oneM2M専門委員会ではoneM2M SCへの対処方針審議、技術課題等に関する委員間の情報共有と意見交換、さらにはoneM2Mで作成した技術仕様書をTTC仕様書として制定する作業を行っています。</p>			
<p style="text-align: center;">重点的取組活動と達成目標、達成時期</p>			
<p>H29年度当初計画</p>	<p>①oneM2Mの次期仕様であるリリース3の完成(2017年Q4目標)に向けた積極的寄与 (日本からの寄与文書提出の促進など) ②<b>oneM2M成果文書(Release3)のダウストリーム制定(2017年度中を予定)</b> ③oneM2M準拠製品・ソリューション普及のためのセミナー/ワークショップ/ショーケースの開催 ・oneM2M準拠製品開発のための「ハンズオンセミナー」(2017年5月下旬 TP29中国開催前後を検討) ・2017年Q3に予定されるRelease3完成のタイミングを捉えて、同仕様の採用、普及を目的としたセミナーを開催予定 ・oneM2M準拠のインプリの普及をアピールするためのShowcase3を実施(2017年度末)</p>		
<p>H29年度目標達成状況</p>	<p>①各TP会合の事前に、参加メンバー間で、提出寄与文書の説明、情報交換、co-signの呼びかけ等を行い、必要に応じて調整を行っている。2017年度は、NEC、富士通、KDDI、日立、NTT等から、計130件超(2017年4～12月)の寄与文書入力し、<b>2018年1月承認予定Release2A、技術仕様書/技術報告書に貢献した。また、2017年度末策定予定のRelease3に貢献中。</b></p> <p>②2017年7月TP30.1会合で採択された、Release2A技術仕様(TS)21件、および技術レポート(TR)9件を、ITU-T SG20に対する勧告化提案作成・入力に積極的に寄与した。現在、ITU-Tで鋭意レビューが行われており、一部のTSと、すべてのTRがすでに承認されている。</p> <p>③Release2Aの最終承認(2018年1月 TP33予定)を受けて、対象技術仕様書・技術レポートのTTCダウストリーム仕様書制定作業を開始予定(Release 3とのタイミングを勘案)</p> <p>④<b>2018年2月2日に「oneM2M開発者向けチュートリアル」を成功裡に開催し、oneM2M準拠実装の容易性、有用性をアピールすることができた。</b></p>		
<p>H30年度当初計画</p>	<p>①oneM2Mの次期仕様であるリリース4の策定に向けた積極的寄与 (日本からの寄与文書提出の促進など) ②<b>oneM2M成果文書(Release3)のダウストリーム制定(2018年9月頃を予定)</b> ③2018年12月に日本招致するTP38と、その会期中に実施する、開催地域のIoTの取り組み等をアピールするIndustry Dayの企画・運営を成功させる ④oneM2M準拠製品・ソリューション普及のためのセミナー/ワークショップ/ショーケースの開催 ・2017年Q4に予定されるRelease3完成のタイミングを捉えて、同仕様の採用、普及を目的としたセミナーを開催予定 ・oneM2M準拠のインプリの普及をアピールするためのShowcase3を実施</p>		

# 中期標準化戦略(平成29年度活動報告)

専門委員会名	oneM2M専門委員会		登録委員数/会員数	44(1グループ)/13	
主な活動項目	概況指標	H29年度目標(当初計画時)	H29年度実施状況		記事
①アップストリーム、他団体との連携	寄書数	各IMとして提出するため目標設定はしないが、日本勢として積極的な寄与を呼びかける	TTCメンバーからの寄書約130件超		
	外部会合への参加状況、連携状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・oneM2M: TP会合(6回、2017年5, 7, 9, 11月及び2017年1, 3月予定)</li> <li>・2018年12月3-7日、TP38会合をARIB/TTCでホスト予定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・oneM2M: TP会合(6回、2017年5,7,9,11月,2017年1, 3月)</li> <li>SC会合(F2F 1回、ウェブ会議 3回)</li> <li>・アドホック会合: 6回(各TP会合前)</li> <li>・oneM2M専門委員会会合(ARIBとの合同) 6回(各TP会合後)</li> </ul>		
②ダウンストリーム	ダウンストリーム数	(Release3) TS: 20件程度 TR: 20件程度	Release 2A TS: 21件、TR: 9件(2018年3月承認)のダウンストリーム制定作業開始(5月中旬承認予定) ※Release 3承認予定が2018年9月のため、Release 2A制定は和文解説等を割愛して簡素化することを合意。		
③国内標準、仕様書、レポートの作成	JJ標準	0件	0件		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件(ダウンストリーム欄に記載)	0件/0件/0件(ダウンストリーム欄に記載)		
④プロモーション、普及推進	セミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンズオンセミナー(2017年5-6月検討中)</li> <li>・oneM2M Release3 セミナー(2018年1月検討中)</li> <li>・Showcase3開催(2018年3月検討中)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年2月2日 開発者向けチュートリアル(「ハンズオンセミナー」より改称)開催(ARIB/TTC共催)開催</li> <li>・開発者向けセミナー続編を2018年6月末頃開催予定として計画開始</li> </ul>		
	記事投稿、講演会	TTCLレポート活動報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2017 Apr. vol.32/No.1 「oneM2M Showcase2開催報告」</li> <li>・2017 Jul. vol.32/No.2 「TP28 会合参加報告」</li> <li>・2017 Oct. vol.32/No.3 「TP30 参加報告」</li> <li>・2017 Jan. vol.32/No.4 「IoT Solutions World Congress2017参加報告」</li> <li>「ETSI IoT Week 2017参加報告」</li> </ul>		

# 中期標準化戦略(平成30年度活動計画)

専門委員会名	oneM2M専門委員会		登録委員数/会員数	44(1グループ)/13
主な活動項目	概況指標	H30年度目標(当初計画時)	H30年度実施状況	記事
①アップストリーム、他団体との連携	寄書数	各IMとして提出するため目標設定はしないが、日本勢として積極的な寄与を呼びかける		
	外部会合への参加状況、連携状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・oneM2M: TP会合 (CY年間5回、2018年度では4回: 2018年6, 9, 12月及び2017年1月予定)</li> <li>・2018年12月3-7日、TP38会合を ARIB/TTCでホスト予定</li> </ul>		
②ダウンストリーム	ダウンストリーム数	(Release3) TS: 20件程度 TR: 20件程度		
③国内標準、仕様書、レポートの作成	JJ標準	0件		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件 (ダウンストリーム欄に記載)		
④プロモーション、普及推進	セミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・oneM2M Release3 セミナー (2018年 5-6月頃検討中)</li> <li>・Showcase3開催 (2018年度内 検討中)</li> <li>・TP38会期中Industry Day (Field Tripまたは関連企業セミナー) (2018年12月)</li> </ul>		
	記事投稿、講演会	TTCレポート活動報告、会合参加報告		

# 中期標準化戦略(日本における状況とTTC標準化方針)

専門委員会名	oneM2M専門委員会	SWG	-
他標準化団体の動向	<p><u>oneM2M</u></p> <p>① oneM2Mの技術検討体制はWG1(REQ), WG2(ARC), WG3(PRO), WG4(SEC), WG5(MAS), WG6(TST)の6つのWGで構成され、構成は昨年から大きくは変化無し。TTCメンバでは山崎氏(KDDI/TTC)が2016年12月までTP副議長、2016年8月よりSC副議長、藤本氏(富士通/TTC)が2017年3月までWG3副議長(2017年5月よりARIBメンバのクアルコムジャパン 内田氏が就任)として活躍。</p> <p>② 認証試験に関して、簡易な相互接続性試験を地域認証組織が行うPhase1と、グローバルな認証管理機関がコンFORMANCEテスト実施により認証を付与するPhase2に整理された。現時点では、韓国TTAが地域認証を開始し、グローバル認証については2018年Q4開始を目標に検討中。</p> <p>③ Release2仕様が2016年8月に発効、改訂仕様のセットとしてRelease2Aが2018年1月承認予定(ITU-T勧告化提案中; 一部承認済)</p> <p>④ 次期リリース(Release3)は2017年Q4完成を目標: 主な焦点は(1)市場への浸透(2)産業向けIoTとスマートシティ(3) Big Data, AI等の新たな分野への展開</p>		
日本における状況 (技術動向、市場動向、標準化の必要性)	<p>① 政府(経産省、総務省)主導の「IoT推進コンソーシアム」が設立され、産業界でのIoT/M2M展開を促進する枠組みが整う。しかし、Industrie 4.0(欧州)、Industrial Internet Consortium(米国)主導の世界的な展開に比べ、本格的な活動はこれから。</p> <p>② IoT/M2MIに対する各業界の関心は高まっているものの、実際の事業展開はこれからと見られる。</p> <p>③ 日本の国内IoT/M2Mサービス普及促進を目指す業界団体は、業界限定の垂直統合的な構造イメージが強く、水平方向展開の共通サービスプラットフォームを目指すoneM2MIは、ユニークかつ有用と思われる。</p> <p>④ IoT/M2Mサービスの充実、市場拡大を図るためには、共通プラットフォームの充実やプラットフォーム間連携など、規模のメリットを生かして、中小企業のIoT/M2Mビジネスへの参入や業界の枠組みを超えたIoT/M2Mデータの利用やサービス提供が行われることが重要と考えられる。</p> <p>⑤ oneM2Mのオープンソース提供が、欧、米、韓国で進んでおり、oneM2Mを活用したIoT/M2Mサービス実現を促進する原動力となる可能性がある。</p> <p>⑥ この1~2年で、IEEE P2413、ISO/IEC JTC1 WG10、ITU-T SG20、W3C WoTなど、多くのIoT/M2M標準化グループが結成され、また、各レイヤにおける標準化においてもIoT/M2Mサービスへの対応を目指すなど、多岐にわたる検討が進められている。韓国や中国も積極的な活動を展開しており、今後の産業への展開を期待しているように伺える。日本においてもこれら標準化への積極的な参加、貢献が求められる。</p>		
TTCの標準化方針	<p>① oneM2MのPartner Type1 SDOとして、oneM2Mの運営に寄与する。 (TTC事務局がFinance Subcommittee議長のTTC事務局を対応。HoDとして各運営委への参画他。)</p> <p>② ARIB/TTCメンバのoneM2MIに対する技術会合への積極的な参画をサポートする。ARIB/TTCメンバ内外に向けたoneM2Mの積極的なプロモーション活動を推進する。</p> <p>③ ARIBと連携して、oneM2Mへの対応、動向把握、情報発信を進めていく。</p> <p>④ oneM2M合同会合を開催し、①SC会合の報告/対処方針の審議、②TPや各WG活動の報告③寄与文書、関連の技術に関する情報交換、意見交換の実施、等を行う。</p> <p>⑤ 対外的なoneM2M報告会やワークショップイベントを適宜実施</p> <p>⑥ oneM2MのDeliverableについて、逐次TTC標準としてダウンストリームを実施する。(年に2回程度)。</p> <p>⑦ 将来的に国内企業の要請に応じてAPP-ID管理や試験認証の機能、体制の実現についても検討を行う。</p>		